

めざそう音楽療法士



音楽療法って何？

音や音楽は人間の「感情」に大きな影響をもたらすと言われていています。音楽療法は音楽が人の心に及ぼす力を利用して、私たちの『心やからだ』に少しでもよい影響を与えることをねらいとしています。

具体的に言うと、そのねらいはまず、音楽を聴くことや歌をうたったり、楽器を演奏したり、音楽のリズムに合わせて身体を動かすなど実際に自分が音楽活動することによる「気分の発散・解放」の体験です。音楽は時に人々の心を癒し、また時に「気分転換」をすることに役立ちます。また、「身体の動きを誘発」しやすく、「開放的な気分」を味わうこともできます。

次に挙げられることは「感覚運動器官の発達」を促すことに役立つということです。音は耳で聴くものですが楽器は目で見ながら身体で「触れる」、そして実際に音を出すといったように、体のさまざまな感覚器官を利用することになります。「見る」「聴く」「触れる」といったこれらの動作は、人間の発達に必要とされる基本的な反応の様式であり最も大切とされていることです。また、声を出して歌をうたったり、音楽で体を動かすことは、「運動機能の発達促進」に役立っています。

さらに、音楽は『コミュニケーション』能力を高めることに役立ちます。音楽は心や体で何かを感じ取りながら、あるきっかけを通して「自己表現の機会」を作り上げていくことが容易です。また音や音楽を介したやりとりのなかで他者を意識することにより徐々に「人への興味、関心」を向けていこうとします。人は他者との関わりを常に持ちながら成長していくわけですから、音楽はこういった人との触れ合いのきっかけ作りに役立つものと考えられます。

最後に「社会性や協調性を培う」ことです。複数の人たちと音楽をすることは、同じ場を「共有」することで、あるときは「共感」の体験を得ることができ、またあるときは他者のやることを見てまねる「模倣」の体験の機会を作り上げやすいと考えられます。模倣動作は人や物への注意、興味、関心を引き出す原動力として欠かすことはできません。

私たちは、音楽の特性でもある、ある意味で、「ルールの要らない自由さ」をうまく活用しながら、音楽活動を通して、ひと時「楽しい時間」を過ごせる雰囲気作りを生活の中で生かし、自分にとってプラスになる色々な体験ができるようにしているわけです。

音楽療法士はどんなところで活躍しているの？

音楽療法士は「医療」「福祉」「教育」「保健活動」等あらゆる分野に応えられるよう、意図的に音楽を使用して、治療的効果をあげています。

例えば**医療の分野**では、心身医療、精神科医療、緩和ケア、小児医療、また作業療法や言語療法の分野でも音楽が盛んに使われています。心のケアやリハビリテーション、発達療育など目的は様々ですが音楽療法士の活躍の場が増えています。

福祉の分野では、おもに障がい児通園施設、療育施設、通所施設、デイケアセンター、老人保健施設、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター等で、治療教育やリハビリテーション、高齢者のケアの一環として音楽療法士が活躍しています。

教育の分野では、音楽教室、学力促進学級、特別支援学校等で音楽の先生が音楽療法士の資格を取得し教育活動に役立っています。

聖徳大学の音楽療法コースを卒業した先輩はこれまで二百余名いますが、それぞれが全国各地で主に福祉や教育の分野を中心に音楽療法士として活躍しています。

音楽療法士は実際にどのように音楽を使っているの？

音楽療法を受ける人の数だけ、音楽療法の種類もあるといわれています。子どもから高齢者まで、さまざまな年代の人のさまざまな心身の状態とその場の状況に合わせて、ありとあらゆる音楽が使われます。対象者に音楽を聴かせるだけではなく、対象者を理解したうえで、その時その場でどんな音楽を作り出したらよいか、**瞬時に判断できる力**が必要とされます。具体的には一緒に演奏したり、歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたり、音楽を創作したり等、音楽活動を通して対象者とコミュニケーションを図る力が求められます。このように音楽の使い方は音楽療法士の数だけあるともいわれていますが、聖徳大学の音楽療法コースでは多様な音楽の使い方の基礎となる理論や技能を学び、その応用方法を臨床実習で実際に対象者と向き合う中で習得していきます。



音楽療法コースではどんな勉強をするの？

音楽療法士をめざすには、音楽はもちろんのこと福祉、医学、心理学といった関連する分野の専門知識も勉強しなければなりません。また、早いうちから現場で実習を積み重ね、セラピストとしてひとり立ちできる実力をつけることが要求されます。

聖徳大学のカリキュラムは、**2年次から臨床実習**を組み入れています。また音楽の基礎から応用まで**個々の実力に合った指導**を重視しており、4年間にわたり系統だったカリキュラムを組んでいます。

1年次	音楽の基礎的な知識と技術	音楽概論、音楽史、ソルフェージュ、実技レッスン
	音楽療法の基礎的な理論と技術	音楽療法概論、音楽療法技能（歌唱・伴奏法）、音楽療法の各論(障害児・者の音楽療法)
2年次	音楽の基礎的な知識と技術	和声学、実技レッスン
	施設実習	社会福祉施設等での支援体験実習
	音楽療法の基礎的な理論と技術	音楽療法各論(高齢者・ホスピスの音楽療法)、音楽療法技能(鍵盤和声)
3年次	音楽療法臨床の治療理論応用技術	音楽療法各論（成人・精神科の音楽療法）、音楽療法演習、音楽療法総合演習
	音楽療法臨床実習	おもに障がい児通園施設・老人保健施設、グループホーム等での音楽療法実習
4年次	音楽療法臨床実習	3年次に引き続き継続実習。4年次は精神科の病院における実習体験も行う。
	教育実習（教職希望者）	
	卒業研究	各自、テーマを決めて音楽療法に関する研究を行う。

あなたはどんな将来、どんな夢をもっていますか？

音楽療法士の資格をとって「医療」「福祉」の現場で活躍したい！

（高齢者や障がい者の施設はいま需要が広がっています。）

聖徳大学の卒業生は、訪問介護員の資格や保育士の資格を在学中に取得し各方面で活躍しています。現場の経験を経て介護福祉士やケアマネージャーの資格を取得した人もいます。

学校の音楽教師を目指したい！

（特に特別支援学校の先生が音楽療法士の資格を取得し、授業に役立てています。）

音楽療法コースでは中学校、高等学校の教員免許を取得することができます。

音楽療法コースの先輩も小学校の音楽の専任や中学校の教員、特別支援学校の教員として活躍しています。

音楽教室でレスナーとして活躍したい！

(子どもを対象とした音楽教室から、大人を対象とした音楽教室に変わりつつあり、某メーカーでは音楽療法研究所を設け、指導者の育成に力を入れ始めました。)

メーカーのグレード取得に向けた対策について専任の先生が丁寧にアドバイスしてくれます。

みなさんそれぞれ将来の夢はいろいろお持ちでしょうが、音楽療法を勉強することはあらゆる分野で役に立ちます。

今まで勉強した音楽を役立てて世の中の人々に貢献したい！

音楽が人々の生活を潤わせていく理由をもっと探してみたい！

音楽で心の病を治していきたい！

音楽の教師になりたいが、音楽療法的なアプローチも知りたい！

人とのかかわり方を身につけ、音楽がどのように心に影響を及ぼすかを理解できる音楽家になりたい！

いろいろな楽器を使って人と交流する方法を学びたい！

その他



卒業後のくわしい進路は？

聖徳大学の音楽療法コース卒業生はいろんなところで活躍しています。

児童・成人の障害者施設の支援職員として音楽療法を担当	5名
高齢者関係の施設で介護職員として働きながら音楽療法を担当	40名
精神科の病院で作業療法の一環として音楽療法を担当	1名
緩和ケア病棟で看護助手として（音楽療法士も兼務）音楽療法を担当	1名
リハビリテーション関係の病院で音楽療法を担当	1名
特別支援学校の音楽の先生として音楽療法を担当	5名
中学校の音楽の先生	5名
小学校の音楽の先生	2名
幼稚園の先生	1名
通園施設の保育士（在学中に通信教育で保育士の国家資格を取得しました）	4名

一般企業として NTT DoCoMo、茨城銀行、日本旅行、JR 東日本、JR 東海、東京海上日動、日本楽器、山野楽器、など

大学院、その他の進学として聖徳大学大学院、東北大学大学院、筑波大学大学院、洗足学園音楽大学大学院、九州リハビリテーション大学校、など

その他ミュージシャンとして活躍している人、ブライダル関係の会社で音楽の企画プロデュースを担当している人、オペラの歌手として活躍している人等、聖徳の音楽療法コースの卒業生はそれぞれが目的を持ってさまざまな方面で活躍しています。

聖徳大学の音楽療法コースの特色は？

- ・ 音楽の基礎から応用まで、各自の実力にあった教育を徹底しています。
- ・ 他大学には類を見ない、実技の専門教育を行っています。特に4年間にわたり実技のレッスンを受けられますから、相当の実力がつきます。
- ・ 福祉関係の施設における施設実習を本学独自で2年次に実施しており、専門職としてのスキルを身につけられるよう配慮しています。
- ・ 地域に溶け込んだサービスを理念とした音楽療法を実施していますので、早くから千葉県内の福祉施設で音楽療法の実習を体験できます。
- ・ 就職に関してはキャリア支援室をはじめ、音楽療法の専任の教員が親身になって相談のり、斡旋することもあります。現在のところ就職希望者の就職実績は約87%です。



rev. 1.0 2008.11.07